

中国 Y-9E 型輸送機の輸出に向けた推奨活動

漢和防務評論 20170705(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

前便に続く IDEX 2017(於 : UAE)のニュースです。
中国は、新型輸送機 Y-20 の就役が遅れているので、ロシアから中古の IL-76 を大量に輸入しているようです。ロシアにはすでに中古の IL-76 の手持ちはない、とのこと。
また中国陸軍は戦術輸送機 Y-9 の導入を開始しました。空中突撃部隊(緊急展開部隊?) の建設を急いでいるようです。

KDR 平可夫アブダビ特電 :

CATIC (中国航空技術国際工程有限公司) は、IDEX 2017 (於 : UAE) において Y-9E 型輸送機を推奨した。中国の Y-9 輸送機の生産機数は相当多く、陝西省漢中市の航空機工場の衛星写真を見ると、過去 5 年間、毎年生産が加速している。すでに KDR は同工場の生産施設が拡大しつつあると報道している。大量の KJ シリーズ早期警戒機、高技術偵察機、対潜哨戒機は、Y-9 をプラットフォームに採用している。

Y-9E は、グラスコックピットを採用、7 個のマルチ・ファンクション・ディスプレイを有し、エンジンは FW6JC を 4 機、新しい 6 枚羽の JL-4 型プロペラを取付けている。最大離陸/着陸重量は 65000KG、通常の着陸重量は 56000KG である。ペイロードは 20 トンで、原型である AN-12 と同じである。最大時速は 660KM、経済時速は 520-580KM、最大航続距離は 5200KM、離陸滑走距離は 1350M、着陸滑走距離は 1300M である。機体の長さは 36.065M、高さ 11.210M、翼幅 38M である。

新型輸送機 Y-20 が未だ就役していないので、中国空軍は依然として Y-9 を必要としている。ロシア航空工業界の高級責任者は、KDR に対し次のように述べた : 中国は、中古の IL-76 を欲しがっている。ロシアは過去 2 年間で、中国に約 15 機の改装した中古の IL-76 を提供した。現在ロシア空軍は、中古の IL-76 は手持ちがない。現在ロシアは、最新の改良型輸送機 IL-76-PS90 の生産を開始しようとしている。したがって 5 年後には IL-76MD/TD の一部が退役することになるう、と。

このほか、ロッキードマーチン社の C-130J、エアバス A-400 (ペイロード 30 トン) が大量に市場に出てくる。C-130J-30 のペイロードは 19.958 トンである。この種の輸送機で、最も関心がある技術は短距離離着陸能力である。戦時においては、野戦飛行場、或いは被弾した飛行場での運用が必要になる。C-130J の離陸滑走距離は 953M (重量 70.3 トン)、A-400 の離陸滑走距離は 980M、着陸滑走距離は 770M である。

現在、ミャンマーが 1 機、Y-9E を輸入したようだ。中国陸軍も Y-9 の導入を開

始した。このことから陸軍航空部隊が拡大を開始したことが解る。今後、中国陸軍が空中突撃大隊を建設することと関係がある可能性がある。空中突撃部隊は逐次拡大される。Y-8を使用する国家はY-9の潜在的なユーザーである。ある説によると、ベネズエラが交渉中であるという。ロシア及びウクライナは、類似の輸送機を生産していない。Y-9Eは、C-130J等西側の同種の輸送機と比べると、価格において優勢であり、特に第3世界国家に対しては一定の競争力がある。

以上